

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 7月 12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100785		
法人名	株式会社 クローバー		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	〒731-1141 広島市安佐北区安佐町鈴張2687 (電話) 082-810-2280		
自己評価作成日	令和4年5月7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100785-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490100785-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年6月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

どこか懐かしい雰囲気を持ち続け、至る所に遊び心を維持し続けようとしている場所である。当事業所は「相手本意の心」を施設理念に「地域になじむ新しい施設の創設」をテーマに自然豊かな町で「ここにしかない場所づくり」を目指している。建物は平屋で安定感がある木造づくりであり、息をし続ける建物構造に工夫をした。施設は「暮らしの空間」と「おもてなしの空間」が区分され、入居者自らが家人と過ごすことのできるラウンジや応接室等がある。また、隣接した社会福祉法人との交流も盛んであり、地域交流スペースや子供カフェ並びに地域のボランティアによる各種行事が盛りだくさんである。家人や職員の理解と協力のもと、入居者の「今」を見つめるケアの在り方を探り続けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人理念「相手本意の心」を根幹に、何事にも感謝し思いやる心を持って実践していくことを目指し職員全員で一丸となり取り組んでいる。事業目標は職員と共に考案し、今年度は「私の笑顔は、あなたの笑顔」としている。職員は理念や事業目標をもとに個人目標を立て、一人ひとりが主体性を持ち常に資質向上を目指している。地域との繋がりも重視し園児との交流や花火大会、花いっぱい運動など多くの行事があり、事業所と地域の活動が慣例化し定着している。法人施設は地域から一時避難場所の指定を受け地域の防災拠点として活動を行っている。年4回広報誌を発行し、新聞折り込みとして地域に届けており、またSNS等の活用にて、理念に基づく日頃の実践をリアルタイムで家族に発信している。

自己評価	外部評価	項目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の理念を共有し、実践につなげるため、立ち止まる場所、振り返る場所は「施設理念」であると伝え続けている。朝・夕の申し送り、各会議開始時は、理念の唱和を行っている。スタッフと共に考えた本年度の事業目標は、「私の笑顔は、あなたの笑顔」としている。	法人理念を取り組む指針として明確にし、朝夕の申し送りをはじめ、面談や年度末に理念の確認研修を実施するなど、職員一人ひとり理解や周知の徹底に努め日々の介護に繋がる実践に尽力している。毎年職員と共に考案した事業目標も掲げ「相手本意の心」の取り組みを体現している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	年間を通じて広報誌を発行し、近隣地域へは新聞の折り込みに入れている。SNSによる発信や駐車場を開放したことも園との交流や、小学校の福祉学習の場の提供は継続している。また、秋祭り花火大会、花いっぱい運動、地域防災活動を地域の方々と共催にて行っている。	四季の季節毎に発行する広報誌は朝刊折り込みで地域に配布する他、SNSの発信に力を注ぎ地域の幅広い方からの認識されている。コロナ禍も近隣のこども園との交流や花火大会、地域の方と花を植える運動、防災活動など様々に地域と活動を共にし絆の深まりを進化させるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	防災訓練等を地域合同にて実施している。施設長は、広島県全域にて地域包括支援センター、教育機関、一般財団法人、各種団体企業と連携を図り、認知症講座を開催し、介護職員の現任、初任者研修講師として啓蒙活動を積極的かつ継続的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍において、書面での家族会の開催が継続しているが、面会時やサービス担当者会議時には、ご家族の意見を聞かせていただいている。あわせて、ご家族への連絡は適宜、状況の報告を行うと共に、意見を頂き、日々の生活に反映できるように努力している。	現在は感染症対策から会議の開催は控え、書面にて伝達し実施している。家族会での意見を集約し運営に反映させている。コロナ禍以前では法人他部署と合同にて実施しており、各関係者をはじめ、利用者全員の参加や家族も多くの参加があり開催していた。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	広島市・広島県の福祉関係機関担当者等との連絡、連携をとり、事業所の実績やケアサービスの取り組みについて協力関係を構築している。また、運営推進委員等との連携を計画的に図るため、広報誌を配布し、毎月の行事案内をSNSを利用し、連絡を密にしている。	法人本部にて行政担当課との連絡や確認を行い集約し役割を明確化し対応している。確認した内容は事業所、職員と共有し密接な連携を可能としている。市が主催する研修への参加、初任者研修の講師や会場を担うなど相互の関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会を中心に年間を通じて計画的に研修等を行い、指定基準の禁止の対象となる具体的な拘束行為を正しく理解するように努めている。夜間並びに事務職員不在時は、入居者の安全確保と防犯上の観点から暮らしの空間とその他の空間を施錠するがその他の時間帯は行っていない。	身体拘束防止マニュアル、指針をもとに身体拘束をしないケアに取り組んでいる。定期的に開催する委員会や研修などにて、身体拘束に該当する具体的な行為について正しく理解している。個々のチェックシート結果や普段気が付いた事案も会議などで検討し改善に繋げている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	尊厳あるケアの提供に努め、施設内外の研修に参加する。自己研鑽できる環境で虐待等を見過ごすことがない様、勇気を持って発言できる環境、防止に努め、豊かな人間性の育成、職員指導に重きを置き、言葉による虐待もあることを職員間で日々意識し未然に防ぐように対応している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人がいる入居者について個々の必要性を関係者と話し合い、状況をライン等で報告する。入居者の状況と家人の思いが大幅に異なる場合等は、常時後見人と連絡し状況を共有する。管理者のみの家人連絡ではなく担当職員が家人へ毎月手紙を出す等、全職員で個々に応じた接点を持つ。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明と同意は最低2時間を使い、契約までに入居者、家人の見学を原則とし入居者が納得の上で家人と共に、分かりやすい説明にて、理解できるように努める。不安や疑問点を尋ねやすい状況を作るために連絡しやすい環境を個々に設置し、意見や要望を日々受け付けられるように努める。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍で会議開催を見送る状況が続くが、書面にて入居者や家人の意見や要望を受け入れ、運営に反映する努力をしている。外部評価の受審により家人に対する匿名アンケートや職員がアウトカム項目のチェックを行い、現在の運営を振り返り、基本を大切にすることを得ている。	毎年家族会を実施し、コロナ禍の現在も書面にて意向を確認し反映に努めている。利用者へも日々日常の中で確認し、それぞれの思いをもとに検討し、ピザやにぎり寿司など、出前店の実施に繋がり継続している。個人の思いを大事にし実現に向け取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の朝夕礼、週単位で実施される連絡会議、月1回実施される、主任、経営、職員会議、カンファレンス、委員会会議等、適宜実施される職員個別面接等を実施している。また、職員の意見を反映し、ピザーラ、すし辰、アンデルセン等の出店を施設内で行い、実施している。	日々の申し送りや月2回のカンファレンスなど職員意見が自由に発信でき、代表者や管理者は話し易い関係構築を重視し配慮を行うことで気さくな意見交換が行われている。バーベキュー交流会やユニット費の創設、挨拶運動など、日々の気になることや思いを反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面接・経験値等を考慮し給与や分掌を精査する。不得意な部分を積極的に指導ではなく得意な事を業務に活かせるように付帯的に不得意な業務が向上できる様にし、有資格者の確保と常勤職員の登用により処遇改善加算を毎月支給し有給休暇に関しては管理簿にて管理しシフトを作成する。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を定期的実施し適宜施設外研修に参加している。認知症実践者、リーダー研修を年間1名以上施設負担にて受講できるようにし、キャリア段位制度における評価者を配置している。独自の目標管理シートにより個別面接を実施し、スキルアップへの取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター等同業者との交流、ネットワークづくりや勉強会等に施設提供を行うことにより、サービスの向上を図る取り組みを実施している。隣接する介護老人福祉施設、地域のこども園等とのネットワークづくりに努め、相互のサービスの質を向上させる取り組みを実施する。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にはご本人の生活している環境確認、面談にて、現況を把握し不安の解消の礎となるよう努力する。原則本人が居室環境の選択、決定を行い、入居日には本人の希望や不安なこと等を担当者がアセスメントし、カンファレンス後、計画書を作成し、本人や家族へ説明同意を実施する。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学やインテーク並びに自宅訪問については事前にアポイント時間を3時間設定し、ゆとりをもって接することを心掛ける。契約時は要望や気づきに耳を傾けられるよう、環境を整え、施設長との連絡を24時間可能とし、メール、電話、SNSを利用した関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居開始では居宅等や入院先等の照会等、個々の必要としている支援を実施する。入居対象とならない入居希望者には、他施設等の紹介、一時的に医療が必要な場合はその関係機関や本庁関係課に照会をかける等、本人や家族が必要とすることを早期に対応する努力を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者のタイムテーブルについて時間を決めることなく、共に暮らす生活を送れるような関係を築けるよう努力する。入居者が職員と共に主体的な生活者としてサービスを利用し続けることができるように計画している。できることはしっかり声掛けを行い、お手伝い等を行っていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍の中であっても、感染症対策を講じ、家族面会を1日3組と限定し実施する。看取り期の入居者のご家族については、面会制限を設けず対応する。一方的な介護とならないよう、担当職員から毎月手紙を送付し、家人と共にケアできるきっかけを日々探る関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の多くは地元出身であり馴染みの景色と場所で暮らしを継続している。住み慣れた地域の中にあるため、馴染みの人の訪問もあり人や場所の関係が途切れることなく生活を送っている。遠方の家族には、SNS等やテレビ電話等にて、コミュニケーションを図れるように努めている。	お話ボランティアや本の読み聞かせ、将棋を打ちに来所されるなど、日々の生活に地域社会との繋がりの継続を意識し実施している。面会の制限中も1日3組の面会実施や端末映像での面会、SNSを通じ利用者の生活や様子を発信するなど、関係の繋がりを継続できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コロナ禍の中でも外出レクや食事会等を企画、実施し、入居者同士の関係を支援する。施設所有の近隣の研修センターへのドライブでは、自然の風景や空気を感じ、いつもとは違う環境の中で、入居者同士の関わりを負担にならないよう職員が見極めながら支援を継続的に実施する。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去した入居者やその家族に対して、広報誌を始めとして、関わりを持ち続ける関係づくりを行っている。また、次の入居先や病院への面会等、継続的に実施している。家族との関わりは継続してフェイスブックやラインなどSNSを利用した相談の受付等を実施している。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナ禍の取り組みとし、家族との連絡や報告ができるよう、LINEビデオ通話を開設する。日常の暮らしの中での困難な場面、楽しんでいる場面を共有し思いの把握に結びつけられるよう、今後の暮らしの希望等を把握し、計画書などへ反映させている。	日常の生活の中での関りにて利用者の思いや意向の把握がなされている。担当職員がつくことでより掘り下げ深い視点にて汲み取るようにし、職員間で共有をしている。個人の趣向にも着目し、カーブの好きな方にはアプリ機能を入れ試合の状況や結果が分かるようにした事例などがある。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメント等がある場合には入手し面接訪問を行う。生活歴、馴染みの暮らし、これまでのサービス利用の経過等をケース記録に記載している。多くの暮らしの情報の把握に努める。入居者とのコミュニケーションの中で得た新しい情報と共に多方面からの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	集団ケアと個別ケアを計画書の中で区分し入居者の心身の状況に合わせ日々を流動的に計画的にケアする。実施したか否かをケアチェック表にて確認し、次の計画書へ反映する。日誌等を両ユニットで共有し把握できる工夫をする。細かな気づきにも伝達観察していけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>計画書はケース担当者を定め介護支援専門員等と共に家族や本人の意向をもと作成する。全職員の多様な視点から介護の実践を行いケアチェック表をもとにモニタリングを行う。電話や書面で家族から意見が出せるツールを設け、日々の気付き等の意見をまとめている。</p>	<p>日々の関りの中で様子の把握や意向を確認し、家族の意見を交え計画作成者が担当職員と共に原案を作成し、カンファレンスにて全員の多様な視点の意見を踏まえ作成している。毎月モニタリングを実施し計画の見直しに反映させている。主治医とも連携し計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>記録については、個々のファイルを作成し、介護計画に基づいたプランを実施する。日々の変化等を記載し、カンファレンスを開き、実践や計画を見直しする。申し送りでは、ボールペンの色を変える等して、他ユニットの入居者も把握できるよう、情報の共有化を図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>サービスの多機能性とし、家族との食事場所としてラウンジ、子供たちのプレイルームとして子供カフェを整備している。地域交流ホールの開放や要望に多機能的に答えることができるよう施設内外を整備し近隣の商店、菊造り作者にも協力を要請し取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の活用として入居前の介護支援専門員と連携しインフォーマルケアを実施している。近隣のお好み焼き屋からの配達や地域資源との協働で安全安心で豊かな暮らしができるように支援し、隣接する社会福祉法人との連携は他には類をみない協働が拓けている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力病院は多科であり地域に存在する医師が協力的に対応している。かかりつけ医を変えず、現在の暮らしを行い往診や通院を通して馴染みの医師との関わりを大切にする。区内には公立病院も存在し適切な医療を受けられる。20床以上の入院病棟を持った医療の支援体制もできている。</p>	<p>利用開始以前の主治医の継続も可能としている。法人敷地内に併設するクリニックの協力医が月2回の往診や適宜の対応などサポートを行っている。協力医療機関を多科にわたり連携しており、専門科にも家族の協力をもとに必要に応じて受診が受けられる体制がある。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員は介護職員を兼務し24時間のオンコール体制、緊急時は10分以内に到着できる地域住民を配置している。介護、医療の業務を遂行し各職員とのチーム協力を行う。看護と介護のノートを作成し情報共有している。隣接する社会福祉法人の看護職員による後方支援は万全である。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には施設長等が同行する体制を作る。情報提供書を早期発行し入院先へ情報提供する。退院時はサマリーの情報提供を受け、日常生活に対応できるように共有化を行う。早期退院に向けての支援や入院時の家族の負担軽減に努力し入院中や入退院時の準備等の支援を行っている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期等は、家族と共に考える機会の提供する。終末期に家人の宿泊場所もあり、看取り期共に生活していただく。居室には好きな音楽や好きなお花を飾ったりとリラックスできる場所となるよう支援する。経口摂取にもこだわりお好きな物を提供する等の支援も行う。	関わる方全てが心を共にし、最期の時を迎えられるよう支援している。ベッドの位置など過ごし易い環境整備や、好みの花や写真が見える位置に施し、食べたいものを食べるなど、様々な心配りに努め寄り添っている。家族用宿泊室も整備し共に生活が行える環境としている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応方法等を定期的を実施し119番通報並びに施設長等への連絡手順を緊急連絡網に記載し、相互の判断で対応する。吸引機等を完備し急変や事故発生時に対応し定期的に研修を実施し委員会では事故報告書等を用い発生要因の分析と再発防止策を検討し全職員に回覧している。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	一時避難場所の指定を自治会から受け災害時応援協定を地域と締結し、災害時には、100人が3日間寝食ができるよう、非常食や自家発電機等を取り揃えている。火災訓練についても地域と共に広島市消防局の指導のもと実施し、地域とは、非常食を実際に調理する訓練も行っている。	法人施設が地域の一時避難場所の指定を受け、災害における地域での防災拠点として役割を担っている。年2回の防災訓練も消防局の指導のもと、地域と合同で実施している。非常食や自家発電機など災害の備えも充実させ、非常食は地域とも実際に調理する訓練を実施している。	



自己評価	外部評価	項目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内年間研修として、人権・同和研修を行っている。職員としての視点とより家人に近い視点を考慮している。職員育成にも人として多様な視点を持つことが双方の尊厳たることと考え取り組む。入居者個々の細部に渡った人格の尊重とプライバシーの確保できるよう努力している。	個人の尊厳を重要視し、利用者に自己決定が行える支援、トイレ時のカーテンを閉める他、パッドは人の目に触れない気配りなど基本を徹底している。職員自ら多様な視点にて利用者を観る力をつけられるように接遇やプライバシーの研修など育成にも力を入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	集団的ケアと個別ケアを総合的に心身の状況にあわせ支援する。特に入浴や食事については入居者の意向に沿って自己選択のもと決定を行えるよう一方的な介護とならないように注意する。食事に関しては、嗜好調査の実施、入浴については洋服選びからのコミュニケーションを実施する。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共通と個別を設定し個々の介護計画に沿ってサービス提供する。食事の提供時間は2時間以内を基本に状況に沿って提供する。生活の安全安楽を考慮しながら自らが主体的な生活者として尊厳のある今を過ごせるよう支援している。一日の終わりに笑顔で床に就いて頂くよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居前の状態を把握しその人らしい整容を実施する。化粧等の介助等、おしゃれを楽しんで頂く。理容美容の希望に沿って外部の協力を得ながら、希望があれば、カットだけではなく、パーマ、カラーもできる。行事には着物も用意し入居者の方には好みを聞きながら着付けをさせて頂く。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	椅子の高さ等を調節し配席に留意し食事が楽しんで頂く。契約農家直送の朝採れ野菜を中心に生活の知恵を活かし、食文化や四季折々の季節を楽しんで頂く。台所からの音や匂いを大切に食の意欲へつなげ、野菜の皮むき等、働ける力を心身の状況に合わせて引き出すよう工夫している。	農家直送の野菜など食材を仕入れ、法人内の厨房にて調理し提供している。副食一品・ご飯・汁物はユニットで調理し盛り付けている。リビング内に食事の音や匂いなど生活感がある。行事食、ピザやにぎり寿司の出前出店や外食の実施など、バラエティーに富んだ食への支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>心身の状況に合わせて水分摂取を無理なくできるようにする。食事が低下している入居者については統一ではなく、その入居者の生活習慣と栄養バランス、嗜好等を添えた食事提供を行う。関連施設の管理栄養士等と連携し、健康状態及び栄養面等に配慮した食事としている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>心身の状況に合わせて口腔内の清潔に努める。洗面台にはうがい薬を設置しうがいを励行し感染症の予防と嚥下機能の低下を予防する観点から、うがい手洗いを職員と共に行う。歯科医師等より技術的助言及び指導を適宜受け、義歯の着脱、清潔等に努め、個別の口腔ケアを実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>心身の状況に合わせて排泄介助を行う。排泄パターンや服薬介助を行い継続、改善の方向に働きかける。個々のパターンを記録し、失禁を未然に防ぐ努力を行う。排便については総蠕動運動を活発に行うことができるよう入居者にあった介護の方法を生み出し医療職と連携しながら実施する。</p>	<p>排泄はトイレに座る事を基本としている。個々のパターンに合わせて誘導や服薬介助を行う他、尿量の把握や便秘予防など排泄状況を確認し、声かけの回数を調整している。リハビリパンツから布パンツに変更するなど、それぞれの心身状況に合わせて改善に繋がる支援を実践している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事や排泄の研修等生活支援技術講習を実施する。基本の確認と個々の入居者に応じた技術向上を目的としその原因や及ぼす影響を理解し研修の回数を重ねる。便秘の予防対策として食事・栄養・水分の3項目に着目し一人ひとりを対象にカンファレンスを実施し具体化している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴時間は原則職員がユニット内に2名以上配置されている時間帯であれば入浴できる体制である。スケジュールを作成している入居者もおり、スケジュールに沿っての実施や排泄の状態に合わせて入浴する等、心身の状況に合わせて入浴を提供する。入浴後には肌の保湿が保てるようにする。</p>	<p>通常は午後からの入浴としているが、職員がユニットに2名以上配置されている時間帯では入浴がいつでも行えるよう柔軟に対応している。入浴後には保湿クリームにて肌の保湿など、衛生管理にも注意をしている。ゆず湯など季節を感じられる工夫も行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>安眠には必要以外の薬に頼らず、 話を聞いたり、室温等に気を配 り自然な流れで床に就くよう心 掛ける。不眠時はお茶などの提 供を容易にし、昼夜逆転が無い よう生活を個々に合わせ活動的 に行う。外気に触れる等、自然 と体とのトータル的な関わりを 重視し安眠へつながる努力して いる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>服薬管理は原則職員が行う。薬 の説明や相談を受けられる環境 とし安心して医療支援を受ける ことができる。個人ボックスにて お薬手帳と合わせ薬に対して副 作用を管理する。医療研修等を 開催し薬の副作用について理 解し服薬変更後は記録を行い、 心掛け、変更後の様子に注視 している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>コロナ禍の中でも外出の機会等 を絶やさないよう、施設所有の 研修センターへのドライブや食 事会等を定期的の実施する。変 わりゆく四季の風景を直接感じ ていただける良い機会となっ ている。施設内においても感染 症対策を講じながら、法話等 については実施している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。</p>	<p>感染症対策を講じた中でこそで きる外出支援を考え外出ツアー を実践している。日常的な外出 支援として、光や風を感じられ る場所へ出る意味を考え、ケア への位置づけを行う。天気の良い 日には、デッキへ出て、体操や お茶の時間を楽しんでもらう等 している。</p>	<p>感染症対策を講じ外出レクや外 食ツアーを実施し、非日常の楽 しみを取り入れた活動の継続に 努めている。普段より敷地内の 花を摘みに歩き、近所への散 歩など行っている。ユニット間 のデッキを活用し体操やおやつ を食べたりと外気に触れなが ら開放感を感じ過ごせるよう にしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>金銭の持ち込みは禁止し小口現 金とし事務室金庫で個別に保管 し入居者の安心につながるよう 全職員が共通理解し実施する。 外出先の買い物も本人がお金 を払う等直接的に金銭のやり 取りができるよう支援する。売 店販売を行っており、毎朝散歩 がてらに購入する入居者もい る。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(厳島)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	書道教室で書いた年賀状を出したり家人の協力の上自らが電話や手紙を出したりできる支援を行う。施設内売店により便箋等も購入できる。郵便番号や電話番号を一緒に調べたり、入居者の方に合わせた方法で支援する。ラインビデオ電話も開通し、面会制限に対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室と共同生活室の距離を心身に合わせ入居時に決める。室名札等は使用せず家庭的な空間を心掛ける。暮らしの空間である居室や共同スペース等には生活の音以外は持ち込まない。業務用機器を使わず、家庭にもある物や風景、食事の香りを大切にし、全居室に手洗いを設置する。	家庭にあるものや景色を意識する考えをもとに、リビング中央にはキッチンがあり食事作りや食器を洗ったりなど生活の音や風景に生活の雰囲気を感じられる配置としている。廊下は畳風のフローリングであり、和やかに過ごせるデッキなど随所に家庭的な生活が送れる設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2ユニットを平屋にし両ユニットの行き来ができるように整備した。気の合った入居者同士で過ごせ、全室個室のため一人になれたり他の入居者を招き入れることができる。畳廊下等にセミパブリックスペースを設置し各々の居場所づくりを可能とし、中庭に出て外気に触れ飲食もできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居にあたっての原則を本人又は家人が施設見学を実施後とする。何度も施設内や居室を見に来て本人と家人が相談し使い慣れたものやカーテン等の持ち込みを行う。家人が遠方であったり来設が困難な場合は季節に応じた家庭用品の購入を職員と共に実施する等、柔軟な対応を行う。	利用開始前に見学に来てもらい居室の様子など見た上で持参物を相談し配置している。筆筒など自宅で慣れ親しんだものを自由に持参でき、照明も自宅のものを持ち込むことも可能である。使い慣れたものの使用が継続でき、馴染みに囲まれた環境で落ち着いて過ごせる場所としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレを狭く転倒防止と安全で自立して排泄できるようにした。ミストサウナは心身に負担をかけず入浴を楽しめる。台所を共同生活室の中央にし大空間に手すりをつけ自立した行動を拡大し食事作りや香り、音等を楽しめる。ユニットを繋ぐ畳廊下により安全で自立した生活が送れる。		

V アウトカム項目(巖島) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の理念を共有し、実践につなげるため、立ち止まる場所、振り返る場所は「施設理念」として伝え続けている。朝・夕の申し送り、各会議開始時は、理念の唱和を行っている。スタッフと共に考えた本年度の事業目標は、「私の笑顔は、あなたの笑顔」としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	年間を通じて広報誌を発行し、近隣地域へは新聞の折り込みに入れている。SNSによる発信や駐車場を開放したことも園との交流や、小学校の福祉学習の場の提供は継続している。また、秋祭り花火大会、花いっぱい運動、地域防災活動を地域の方々と共催にて行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	防災訓練等を地域合同にて実施している。施設長は、広島県全域にて地域包括支援センター、教育機関、一般財団法人、各種団体企業と連携を図り、認知症講座を開催し、介護職員の現任、初任者研修講師として啓蒙活動を積極的かつ継続的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍において、書面での家族会の開催が継続しているが、面会時やサービス担当者会議時には、ご家族の意見を聞かせていただいている。あわせて、ご家族への連絡は適宜、状況の報告を行うと共に、意見を頂き、日々の生活に反映できるように努力している。		
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	広島市・広島県の福祉関係機関担当者等との連絡、連携をとり、事業所の実績やケアサービスの取組みについて協力関係を構築している。また、運営推進委員等との連携を計画的に図るため、広報誌を配布し、毎月の行事案内をSNSを利用し、連絡を密にしている。		

自己評価	外部評価	項 目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会を中心に年間を通じて計画的に研修等を行い、指定基準の禁止の対象となる具体的な拘束行為を正しく理解するように努めている。夜間並びに事務職員不在時は、入居者の安全確保と防犯上の観点から暮らしの空間とその他の空間を施錠するがその他の時間帯は行っていない。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	尊厳あるケアの提供に努め、施設内外の研修に参加する。自己研鑽できる環境で虐待等を見過ごすことがない様、勇気を持って発言できる環境、防止に努め、豊かな人間性の育成、職員指導に重きを置き、言葉による虐待もあることを職員間で日々意識し未然に防げるように対応している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	後見人がいる入居者について個々の必要性を関係者と話し合い、状況をライン等で報告する。入居者の状況と家人の思いが大幅に異なる場合等は、常時後見人と連絡し状況を共有する。管理者のみの家人連絡ではなく担当職員が家人へ毎月手紙を出す等、全職員で個々に応じた接点を持つ。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	説明と同意は最低2時間を使い、契約までに入居者、家人の見学を原則とし入居者が納得の上で家人と共に、分かりやすい説明にて、理解できるように努める。不安や疑問点を尋ねやすい状況を作るために連絡しやすい環境を個々に設置し、意見や要望を日々受け付けられるように努める。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍で会議開催を見送る状況が続くが、書面にて入居者や家人の意見や要望を受け入れ、運営に反映する努力をしている。外部評価の受審により家人に対する匿名アンケートや職員がアウトカム項目のチェックを行い、現在の運営を振り返り、基本を大切にしている機会を得ている。		



自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の朝夕礼、週単位で実施される連絡会議、月1回実施される、主任、経営、職員会議、カンファレンス、委員会会議等、適宜実施される職員個別面接等を実施している。また、職員の意見を反映し、ピザーラ、すし辰、アンデルセン等の出店を施設内で行い、実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面接・経験値等を考慮し給与や分掌を精査する。不得意な部分を積極的に指導ではなく得意な事を業務に活かせるように付帯的に不得意な業務が向上できる様にし、有資格者の確保と常勤職員の登用により処遇改善加算を毎月支給し有給休暇に関しては管理簿にて管理しシフトを作成する。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修を定期的実施し適宜施設外研修に参加している。認知症実践者、リーダー研修を年間1名以上施設負担にて受講できるようにし、キャリア段位制度における評価者を配置している。独自の目標管理シートにより個別面接を実施し、スキルアップへの取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括支援センター等同業者との交流、ネットワークづくりや勉強会等に施設提供を行うことにより、サービスの向上を図る取り組みを実施している。隣接する介護老人福祉施設、地域のこども園等とのネットワークづくりに努め、相互のサービスの質を向上させる取り組みを実施する。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にはご本人の生活している環境確認、面談にて、現況を把握し不安の解消の礎となるよう努力する。原則本人が居室環境の選択、決定を行い、入居日には本人の希望や不安なこと等を担当者がアセスメントし、カンファレンス後、計画書を作成し、本人や家族へ説明同意を実施する。		

自己評価	外部評価	項 目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学やインテーク並びに自宅訪問については事前にアポイント時間を3時間設定し、ゆとりをもって接することを心掛ける。契約時は要望や気づきに耳を傾けられるよう、環境を整え、施設長との連絡を24時間可能とし、メール、電話、SNSを利用した関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居開始では居宅等や入院先等の照会等、個々の必要としている支援を実施する。入居対象とならない入居希望者には、他施設等の紹介、一時的に医療が必要な場合はその関係機関や本庁関係課に照会をかける等、本人や家族が必要とすることを早期に対応する努力を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者のタイムテーブルについて時間を決めることなく、共に暮らす生活を送れるような関係を築けるよう努力する。入居者が職員と共に主体的な生活者としてサービスを利用し続けることができるように計画している。できることはしっかり声掛けを行い、お手伝い等を行っていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍の中であっても、感染症対策を講じ、家族面会を1日3組と限定し実施する。看取り期の入居者のご家族については、面会制限を設けず対応する。一方的な介護とならないよう、担当職員から毎月手紙を送付し、家人と共にケアできるきっかけを日々探る関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者の多くは地元出身であり馴染みの景色と場所で暮らしを継続している。住み慣れた地域の中にあるため、馴染みの人の訪問もあり人や場所の関係が途切れることなく生活を送っている。遠方の家族には、SNS等やテレビ電話等にて、コミュニケーションを図れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	コロナ禍の中でも外出レクや食事会等を企画、実施し、入居者同士の関係を支援する。施設所有の近隣の研修センターへのドライブでは、自然の風景や空気を感じ、いつもとは違う環境の中で、入居者同士の関わりを負担にならないよう職員が見極めながら支援を継続的に実施する。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去した入居者やその家族に対して、広報誌を始めとして、関わりを持ち続ける関係づくりを行っている。また、次の入居先や病院への面会等、継続的に実施している。家族との関わりは継続してフェイスブックやラインなどSNSを利用した相談の受付等を実施している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コロナ禍の取り組みとし、家族との連絡や報告ができるよう、LINEビデオ通話を開設する。日常の暮らしの中での困難な場面、楽しんでいる場面を共有し思いの把握に結びつけられるよう、今後の暮らしの希望等を把握し、計画書などへ反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメント等がある場合には入手し面接訪問を行う。生活歴、馴染みの暮らし、これまでのサービス利用の経過等をケース記録に記載している。多くの暮らしの情報の把握に努める。入居者とのコミュニケーションの中で得た新しい情報と共に多方面からの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	集団ケアと個別ケアを計画書の中で区分し入居者の心身の状況に合わせ日々を流動的に計画的にケアする。実施したか否かをケアチェック表にて確認し、次の計画書へ反映する。日誌等を両ユニットで共有し把握できる工夫をする。細かな気づきにも伝達観察していけるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p><b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b></p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>計画書はケース担当者を定め介護支援専門員等と共に家族や本人の意向をもと作成する。全職員の多様な視点から介護の実践を行いケアチェック表をもとにモニタリングを行う。電話や書面で家族から意見が出せるツールを設け、日々の気付き等の意見をまとめている。</p>		
27		<p><b>○個別の記録と実践への反映</b></p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>記録については、個々のファイルを作成し、介護計画に基づいたプランを実施する。日々の変化等を記載し、カンファレンスを開き、実践や計画を見直しする。申し送りでは、ボールペンの色を変える等して、他ユニットの入居者も把握できるよう、情報の共有化を図っている。</p>		
28		<p><b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b></p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>サービスの多機能性とし、家族との食事場所としてラウンジ、子供たちのプレイルームとして子供カフェを整備している。地域交流ホールの開放や要望に多機能的に答えることができるよう施設内外を整備し近隣の商店、菊造り作者にも協力を要請し取り組んでいる。</p>		
29		<p><b>○地域資源との協働</b></p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の活用として入居前の介護支援専門員と連携しインフォーマルケアを実施している。近隣のお好み焼き屋からの配達や地域資源との協働で安全安心で豊かな暮らしができるように支援し、隣接する社会福祉法人との連携は他には類をみない協働が拓けている。</p>		
30	11	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b></p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力病院は多科であり地域に存在する医師が協力的に対応している。かかりつけ医を変えず、現在の暮らしを行い往診や通院を通して馴染みの医師との関わりを大切にする。区内には公立病院も存在し適切な医療が受けられる。20床以上の入院病棟を持った医療の支援体制もできている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護職員は介護職員を兼務し24時間のオンコール体制、緊急時は10分以内に到着できる地域住民を配置している。介護、医療の業務を遂行し各職員とのチーム協力を行う。看護と介護のノートを作成し情報共有している。隣接する社会福祉法人の看護職員による後方支援は万全である。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には施設長等が同行する体制を作る。情報提供書を早期発行し入院先へ情報提供する。退院時はサマリーの情報提供を受け、日常生活に対応できるように共有化を行う。早期退院に向けての支援や入院時の家族の負担軽減に努力し入院中や入退院時の準備等の支援を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や終末期等は、家族と共に考える機会の提供する。終末期に家人の宿泊場所もあり、看取り期を共に生活していただく。居室には好きな音楽や好きなお花を飾ったりとリラックスできる場所となるよう支援する。経口摂取にもこだわり好きな物を提供する等の支援も行う。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時の対応方法等を定期的の実施し119番通報並びに施設長等への連絡手順を緊急連絡網に記載し、相互の判断で対応する。吸引機等を完備し急変や事故発生時に対応し定期的に研修を実施し委員会では事故報告書等を用い発生要因の分析と再発防止策を検討し全職員に回覧している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>一時避難場所の指定を自治会から受け災害時応援協定を地域と締結し、災害時には、100人が3日間寝食ができるよう、非常食や自家発電機等を取り揃えている。火災訓練についても地域と共に広島市消防局の指導のもと実施し、地域とは、非常食を実際に調理する訓練も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	施設内年間研修として、人権・同和研修を行っている。職員としての視点とより家人に近い視点を考慮している。職員育成にも人として多様な視点を持つことが双方の尊厳たることと考え取り組む。入居者個々の細部に渡った人格の尊重とプライバシーの確保できるよう努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	集団的ケアと個別ケアを総合的に心身の状況にあわせ支援する。特に入浴や食事については入居者の意向に沿って自己選択のもと決定を行えるよう一方的な介護とならないように注意する。食事に関しては、嗜好調査の実施、入浴については洋服選びからのコミュニケーションを実施する。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	共通と個別を設定し個々の介護計画に沿ってサービス提供する。食事の提供時間は2時間以内を基本に状況に沿って提供する。生活の安全安楽を考慮しながら自らが主体的な生活者として尊厳のある今を過ごせるよう支援している。一日の終わりに笑顔で床に就いて頂くよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入居前の状態を把握しその人らしい整容を実施する。化粧等の介助等、おしゃれを楽しんで頂く。理容美容の希望に沿って外部の協力を得ながら、希望があれば、カットだけではなく、パーマ、カラーもできる。行事には着物も用意し入居者の方には好みを聞きながら着付けをさせて頂く。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	椅子の高さを調節し配席に留意し食事が楽しんで頂く。契約農家直送の朝採れ野菜を中心に生活の知恵を活かし、食文化や四季折々の季節を楽しんで頂く。台所からの音や匂いを大切に食の意欲へつなげ、野菜の皮むき等、働ける力を心身の状況に合わせて引き出すよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>心身の状況に合わせて水分摂取を無理なくできるようにする。食事が低下している入居者については統一ではなく、その入居者の生活習慣と栄養バランス、嗜好等を添えた食事提供を行う。関連施設の管理栄養士等と連携し、健康状態及び栄養面等に配慮した食事に行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>心身の状況に合わせて口腔内の清潔に努める。洗面台にはうがい薬を設置しうがいを励行し感染症の予防と嚥下機能の低下を予防する観点から、うがい手洗いを職員と共に行う。歯科医師等より技術的助言及び指導を適宜受け、義歯の着脱、清潔等に努め、個別の口腔ケアを実施している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>心身の状況に合わせて排泄介助を行う。排泄パターンや服薬介助を行い継続、改善の方向に働きかける。個々のパターンを記録し、失禁を未然に防ぐ努力を行う。排便については総蠕動運動を活発に行うことができるよう入居者にあった介護の方法を生み出し医療職と連携しながら実施する。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事や排泄の研修等生活支援技術講習を実施する。基本の確認と個々の入居者に応じた技術向上を目的としその原因や及ぼす影響を理解し研修の回数を重ねる。便秘の予防対策として食事・栄養・水分の3項目に着目し一人ひとりを対象にカンファレンスを実施し具体化している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴時間は原則職員がユニット内に2名以上配置されている時間帯であれば入浴できる体制である。スケジュールを作成している入居者もおおり、スケジュールに沿っての実施や排泄の状態に合わせて入浴する等、心身の状況に合わせて入浴を提供する。入浴後には肌の保湿が保てるようにする。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>安眠には必要以外の薬に頼らず、 話を聞いたり、室温等に気を配 り自然な流れで床に就くよう心 掛ける。不眠時はお茶などの提 供を容易にし、昼夜逆転が無い よう生活を個々に合わせ活動的 に行う。外気に触れる等、自然 と体とのトータル的な関わりを 重視し安眠へつながる努力して いる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>服薬管理は原則職員が行う。薬 の説明や相談を受けられる環境 とし安心して医療支援を受ける ことができる。個人ボックスにて お薬手帳と合わせ薬に対して副 作用を管理する。医療研修等を 開催し薬の副作用について理 解し服薬変更後は記録を行い、 心掛け、変更後の様子に注視 している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>コロナ禍の中でも外出の機会等 を絶やさないよう、施設所有の 研修センターへのドライブや食 事会等を定期的の実施する。変 わりゆく四季の風景を直接感じ ていただける良い機会となっ ている。施設内においても感染 症対策を講じながら、法話等 については実施している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。</p>	<p>感染症対策を講じた中でこそで きる外出支援を考え外食ツアー を実践している。日常的な外出 支援として、光や風を感じられ る場所へ出る意味を考え、ケ アへの位置づけを行う。天気 の良い日には、デッキへ出て、 体操やお茶の時間を楽しんでも らう等している。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>金銭の持ち込みは禁止し小口現 金とし事務室金庫で個別に保管 し入居者の安心につながるよう 全職員が共通理解し実施する。 外出先の買い物も本人がお金 を払う等直接的に金銭のやり 取りができるよう支援する。売 店販売を行っており、毎朝散歩 がてらに購入する入居者もい る。</p>		



自己評価	外部評価	項 目(金刀比羅)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	書道教室で書いた年賀状を出したり家人の協力の上自らが電話や手紙を出したりできる支援を行う。施設内売店により便箋等も購入できる。郵便番号や電話番号を一緒に調べたり、入居者の方に合わせた方法で支援する。ラインビデオ電話も開通し、面会制限に対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室と共同生活室の距離を心身に合わせ入居時に決める。室名札等は使用せず家庭的な空間を心掛ける。暮らしの空間である居室や共同スペース等には生活の音以外は持ち込まない。業務用機器を使わず、家庭にもある物や風景、食事の香りを大切にし、全居室に手洗いを設置する。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2ユニットを平屋にし両ユニットの行き来ができるように整備した。気の合った入居者同士で過ごせ、全室個室のため一人になれたり他の入居者を招き入れることができる。畳廊下等にセミパブリックスペースを設置し各々の居場所づくりを可能とし、中庭に出て外気に触れ飲食もできる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居にあたっての原則を本人又は家人が施設見学を実施後とする。何度も施設内や居室を見に来て本人と家人が相談し使い慣れたものやカーテン等の持ち込みを行う。家人が遠方であったり来設が困難な場合は季節に応じた家庭用品の購入を職員と共に実施する等、柔軟な対応を行う。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレを狭く転倒防止と安全で自立して排泄できるようにした。ミストサウナは心身に負担をかけず入浴を楽しめる。台所を共同生活室の中央にし大空間に手すりをつけ自立した行動を拡大し食事作りや香り、音等を楽しめる。ユニットを繋ぐ畳廊下により安全で自立した生活が送れる。		

V アウトカム項目(金刀比羅) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームこころ

作成日 令和4年8月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ケアプランの把握。	職員全員が18人全員のプランを知ることができる。	各ユニットに有るプランのファイルをしっかり確認し把握する様に声掛け指導する。	3ヶ月
2	19	家族への連携。	入居者様の状態を定期的に伝える。(状態の変化以外で)	定期的に連絡する。本人との会話が可能であれば電話対応する。	3ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。